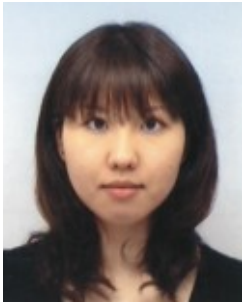


臨床研修修了にあたって

臨床研修を修了して

研修歯科医 茂木香織



3月に国家試験合格の発表があつてから、早いもので1年が経とうとしています。現在、私は歯科総合診療部で1年間の研修を行っています。4月のとき「この1年はあつという間に過ぎていきます。」と藤井教授に言われた言葉を今、身にしみて感じています。

4月から総合診療部で研修が始まり、新たな気持ちでスタートしようと思う反面、新潟大学卒で同期も多く、総合診療部で学生実習を行っていたこともあり、どこか学生気分の延長といったような気持ちもありました。しかし、実際に診療が始まってみると、そんな気持ちは吹き飛びました。問診や病態確認はもちろんのこと、処置に関しても、学生のと看とは比べものにならないほど自分でやらせてもらえる幅が増えました。もちろんその分、自分の責任が大きくなり、はじめのうちはプレッシャーを感じることもありましたが、自主的に勉強をして取り組むことで自分の自信にもつながっているように思います。診療が始まって、特に学生との違いを感じたのは「時間の使い方」でした。学生時代は3時間という時間枠の中で、自分の目の前にある処置をいかにこなしていくかということに重点をおき、無我夢中で診療を行っていました。しかし、研修歯科医になってからは1時間半という時間枠の中で、この処置を何分で終わらせ次に何をすべきか、また、もし終わらないとすればどこでやめるべきかなど時間配分を考えながら診療を行っていくようになりました。はじめのうちはこの時間配分が大変難しく、診療時間内で終わらないこともありましたが、時間を

意識することや自分のペースを診療内でつかんでいくことで、徐々にではありますが時間をうまく使えるようになってきたかなと思っています。

またこの研修で本当に勉強になったのは「技工係」でした。これは指導歯科医の先生方や医員・レジデントの先生方のアシストにつく係です。冠・ブリッジ、義歯、歯周治療などスタンダードな処置で、処置内容が分かっているものを先生方が行い、そのアシストにつくことで、使用する器具や手順、姿勢やレストの置き方、またその診療の中で何に一番注意を払っているかなど、どれをとっても自分への臨床のヒントになっていました。そのほかにもインプラントや外科挺出術など自分が普段触れることのない診療を近くでみることで、実際の構造や手技などを学ぶことができました。時には先生方から診療を効率よく進めていくために、教科書や文献には載っていない臨床テクニックを教えていただく機会もありました。私たちはここで得た知識を研修歯科医同士で共有していたので、見た処置はもちろん、見たことのない処置についても、この1年で多くのテクニックを得ることができたのではないかと感じています。

同期の研修歯科医が多いことは知識の獲得にとどまらず、様々な面で非常に良い刺激となりました。例えば、経験症例の多さや特殊な処置内容などの自分にはない症例の話や聞くと勉強になるなと思う反面、自分も頑張らなくてはと感じ、モチベーションの向上につながりました。患者様の治療計画などで行き詰ったときも同期と相談することで、問題点や解決策を別の視点から考える一つのきっかけをもらえることも多々ありました。同期がいたからこそ互いに切磋琢磨し、この研修をより充実したものにできたのではないかと感じています。

最後になりましたが、この1年お世話になった指導歯科医の先生はじめ、医員・レジデントの先生方、技工士の先生方、摂食嚥下リハビリテーショ

ン室、顎関節治療部、口腔外科の先生方、また1年間つらいときや楽しいときをともに過ごしたペアの田島先生や同期の研修歯科医の先生方、温かい目で見守ってくださった患者様に感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

臨床研修修了にあたって

研修歯科医 浪岡 奈保子



3月に無事歯科医師国家試験に合格し、4月より晴れて歯科医師としての道をスタートさせることができました。私は9月までは地元である秋田の由利組合総合病院にて、10月からは小

児歯科にて研修をさせていただいています。

秋田では総合病院における口腔外科での研修でした。地方の病院でしたので、口腔外科に限らず一般歯科も含め多くの症例を診させていただくことができました。総合病院ということで患者様の9割は有病者で全身管理や薬の勉強が必須となる環境であり、医科との連携や勉強会なども多く、とても刺激的な日々を送らせていただくことができました。初めは分からないことだらけでしたが、指導歯科医の先生や周囲の研修歯科医の方たちの姿を見て私にも次第に自分で調べる習慣がつかしました。私の場合、指導歯科医の先生が「研修の間は俺達が責任を持つ。だからこの間にいろいろなことをしてみろ。」とおっしゃって下さったため、積極的により多くのことを学ぼう、診よう、やってみようという気持ちで研修期間を過ごすことができました。本当に恵まれた環境での研修を送らせていただくことができましたと思います。

新潟を離れてまず感じたことはデンタルIQの格差への驚きです。「新潟の人はなんてお口の中がきれいなんだろう」これが一番初めに感じたことでした。私が歯科の知識を得てから実際に口腔内を診させていただいたのは、この大学病院へ通う総合診療部の患者様だけです。また、学生が担当させていただくのは基本的に基礎疾患の無い患者

様でしたので、大学病院を離れはじめて現実を見たという気がしました。

前半の総合病院での研修では主に初診患者様を担当させていただきましたが、限られた時間の中での診療はスピードと的確な判断が求められます。歯科医師としての責任の大きさを強く感じ、研修は学生の延長ではないということに今更ながら気づかされました。ここへ来て改めて思い知らされたことは、主訴の改善の難しさと治療方針の大切さです。患者様が治してほしい部位だけの治療で終われる症例はほとんどありません。理想的な治療と、患者様に満足していただける治療との狭間で悩まされました。また、主訴の改善の為に1歯だけを診て治療をした結果、1口腔単位での理想的な治療が行えなくなってしまうなど、自分の未熟さにも気づき改めて治療方針の重要性を感じました。

総合病院での研修では救急対応にも参加させていただきました。指導歯科医の先生が私のことも一緒に呼んで下さったため、本当に貴重な、そして今後にとっても役立つ経験をさせていただいたと思います。この病院で研修をさせていただくことで、私の中で隔たりを持っていた『医科』と『歯科』という考えが間違っていたことに気づくことができました。

大学を離れることで学べるものがたくさんありましたが、私にとってこの研修プログラムの素晴らしさが分かったのは大学に戻ってきてからです。大学を離れて診療を行っているたくさんの症例を診ることができるだけでなく実際に手を動かす機会も多かったため、随分と成長した気になっていました。しかし大学に戻り総合診療部できちんと治療計画を立て精密な技工物に取り組んでいる同期の人たちの姿や、各診療室での専門性に富んだ治療を見ることで、基礎の大切さと歯科医としてのプライドを思い出すことができました。この研修プログラムを通して、ただ治療をこなすだけでは成長することはできないということを改めて実感しました。

残り少ない研修期間も今後につながる研修になるよう努力していきますのでご指導の程よろしくお願いたします。